

下北地区統合校教育内容等情報交換会（第2回）概要

日時：令和6年11月27日（水）

13:30～15:00

場所：むつ合同庁舎 2階大会議室

<出席者>

山本 隆悦 進行役、伊藤 文一 委員、野呂 政幸 委員、高坂 一弘 委員、
又村 彰 委員、佐々木 一浩 委員、濱田 大臣 委員、木村 努 委員、
吉田 成人 委員、阿部 謙一 委員、高屋 龍一 委員、濱中 亮輔 委員、
畑中 祐美子 委員、成田 浩之 委員

1 開会

2 第1回情報交換会における主な意見の確認

事務局から資料2により説明

進行役から事務局へ資料2の「4 検討内容に関する質問事項等」に対する、回答を求めた。

→（事務局）1つ目から3つ目の○に対して、第2期実施計画の統合では、統合の対象となった高校の募集停止後、状況に応じて高校間で連携しながら、合同学習や部活動の合同チームでの大会出場等により教育活動を実施してきたところ。また、統合校における部活動や特色ある教育活動については、令和7年度に開催する開設準備委員会で協議を行った上で、令和8年度に設置する開設準備室で決定することとしている。

4つ目の○に対して、本情報交換会は開設準備委員会の検討を更に充実させるために開催していることから、開設準備委員会で協議する統合校の教育内容等に関する事項について意見交換を進めていきたい。

情報提供として、校舎の設計については、本年12月末での完成を予定しており、日程的にはほぼ最終段階となっている。また、実習設備等については、開設準備委員会への協議結果を踏まえ、開設準備室で決定した教育課程に応じて必要な整備を行う。

5つ目の○に対して、令和7年度からの校舎建設期間中は、むつ工業高校のグラウンドが使用できない見込みであり、部活動等の活動場所については、学校等と連携しながら確保に努めているところ。

むつ工業高校長から、次のような補足説明があった。

○ 令和7年度からむつ工業高校のグラウンドが使用できないことから、部活動の活動場所について、むつ市の運動施設の利用を含め検討しているところ。

また、授業は、既存のむつ工業高校の体育館や球技場の利用のほか、むつ運動公園の借用により対応できると考えている。

さらに、今年度の体育祭や運動会などの学校行事では、しもきた克雪ドームを借用し、実施していることから、令和7年度以降グラウンドが使用できない期間についても同様の対応を考えている。

進行役から次のような発言があり、情報交換会の開催趣旨を再度確認した。

- 本情報交換会では教育内容に関する事項について意見交換を進めることとし、部活動については、来年度開催する開設準備委員会で協議していくこととする。

3 意見交換

(1) 特色ある教育活動について

委員から、次のような意見があった。

- 下北地区では、建設会社の現場監督が不足している。青森県立むつ高等技術専門校に、建築科はあるが、土木科はない。県内でも土木科が少ないことから、統合校に土木科があれば、他地区や県外からも生徒が入学し、下北地区の企業に就職するといったサイクルができるのではないかと。

(2) 総合学科と工業科の連携について

委員から、次のような意見があった。

- 総合学科と工業科の併置によるメリットを活かした連携として次のような取組が考えられる。
 - ・ 総合学科の健康福祉系列と工業科の連携により、健康福祉系列の生徒が介護実習等において、介護備品の不便と思う点に対し、工業科の技術を取り入れ、その不便さの解消を実現させることができる。
 - ・ 情報ビジネス系列と工業科の連携により、情報ビジネス系列の生徒が工業科の高性能な設備の使用や、専門教員の指導により、更に高度な学びを行うことができる。
 - ・ 情報ビジネス系列のビジネスコースと工業科の連携により、工業分野のマーケティングに対して視野が広がる。
 - ・ 自然科学系列と工業科の連携により、自然科学系列の生徒が、教科書での理系の学習だけでなく、工業科の設備を活用することで、高いレベルの研究等も可能となり、進路選択の幅が広がる。
- 連携については、生徒たちの興味・関心や進路志望に応じて、生徒たちが主体的に取り組めるよう、専門の教科・科目だけでなく、課題研究で実践することで、思考力や探究力などを育むとともに、幅広い知識や技術を習得し、地域を支える人財の育成にも繋がる。

- 総合学科でも簿記の授業を行っている現状を踏まえ、工業科との併置のメリットを活かし、補習等で工業簿記を行い、資格取得につなげることで地元で即戦力として働ける人財を育成できると考える。
- 現在の大湊高校の探究活動とむつ工業高校の課題研究は、学年や学科、コースで分かれて実施されているのか。
- 大湊高校の探究活動は、より発展的な内容に取り組めるよう、年次に分けて実施している。なお、系列をまたいで活動する場合もある。
- むつ工業高校の課題研究は、1年生からの実習等で身に付ける基礎的な知識や技術を活用して、3年生から取り組んでいる。
- 学びの選択肢を増やすためにも、学科やコースの組合せが大事になってくる。

- 統合校開校に向けて、これから本格的に準備を進めていく中で、問題点があると考えている

1つ目として、令和7年度から統合校校舎の工事が開始するが、校舎建設期間中むつ工業高校のグラウンドが使用できなくなることによる、むつ工業高校生及び統合校生の野球部への影響である。令和7年度からグラウンドが使用できないことから、来年度の開設準備委員会設置前に、県教育委員会主導で明確な対応を示すべき。

昨年度、下北地区統合校検討委員会で、統合校の野球場とグラウンドを併置案としないしてほしいとの意見が出されたが、今年9月の検討委員会で図面を確認した際に、反映されていなかった。併置案としないことをもう一度検討すべき。

2つ目として、校舎が新しく建設されることや、工事期間中グラウンドが使用できないこと、またその対策などを工事のスケジュールと併せて、早急に広く地域へ説明する必要がある。

3つ目として、グラウンドの問題が解決しないことによる、むつ工業高校と統合校の入学者が想定よりも減少することである。部活動の活動場所が整備されていない高校には、中学生は入学せず、そのことにより、他地区への入学を希望する生徒が増えると考ええる。

これらの問題は、令和9年度に高校へ進学することとなる現在の中学校1年生だけではなく、その前後年代のこどもたちにも大きな影響を与えるため、早急に解決すべき。

また、下北地区のこども・保護者、中学校の教職員は校舎が新しくなることやグラウンドが使えなくなることなど、統合校の状況を知らない。こどもたちに、統合校へ進学したいという夢と希望を持ってもらうためにも、現状を含めて正確な統合校の情報を提供する場を県教育委員会で設定すべき。

- (事務局) 令和7年度からの校舎建設期間中は、むつ工業高校のグラウンドは使用できない見込みであることから、両校とも様々情報を共有しながら、生徒の活動場所の確保に努めていく。

また、グラウンドの設計はまだ完成していないため、野球場とグラウンドの配置については、今後検討していく。

- 部活動を理由に高校を選択する生徒は非常に多い。そのためにも、活動する環境をきちんと整備する必要がある。また、県立高校であることを踏まえると、全てのこどもが同じような環境で部活動に取り組めるようにする必要があり、その環境によって、進路選択が左右されるようなことはあってはならない。
- 新たに考えられる教育活動などの具体的なものは、来年度以降決定していくのか。周知時期等も含め、スケジュールを教えてほしい。
→ (事務局) 令和7年度の開設準備準備委員会で教育内容を協議し、その協議結果を踏まえ、令和8年度に設置する開設準備室で決定していく。
また、これまで、学科改編等については、学科を設置する前年度6月の教育委員会会議で決定していることから、教育内容の周知は、それ以降に高校が、各中学校等に説明することとなると考えている。
- できる限り教育内容等の情報についても早く提供していく必要がある。
- 統合校の校舎が完成した後でも既存校舎をむつ工業高校の生徒が卒業するまで使用した場合、グラウンドの整備が遅れると思うが。
→ (事務局) 現在設計をしている管理・普通教室棟を建設した後、実習棟を建設し、その後、既存校舎を解体するという大まかな流れとなっているが、具体的なスケジュールは決定していない。施設の担当課には情報提供する。
- 大湊高校むつ工業高校の教育内容や生徒の活動を見れば、魅力ある学校だと伝わるが、公開授業や研究発表を行うと、中学校の教職員の参加は、管理職や3年生の進路担当者であり、1・2年生の担任の教職員は参加していない現状である。中学校の多くの教職員が公開授業や研究発表に参加するようになれば、生徒へ各校の魅力が十分に伝わるのではないかと考える。
また、中学校の校長先生へのお願いとなるが、中学校の全教職員に高校の学校像や教育内容を伝える機会があれば良いのではないかと考える。
- 学校説明会や公開授業等には、中学校から多くの教職員を参加させているが、最近では保護者が高校の現状をいち早く把握しており、その情報に生徒の進路選択が左右されることが多い。
- 統合校で充実した教育内容を提供できれば、部活動を理由に学校を選択した生徒が、挫折した場合であっても充実した学校生活を送れると考えている。この教育内容等のソフト面に加え、ハード面の整備が伴えば、非常に素晴らしい学校になると思う。

- 学びの機会や教職員の働き方改革などへの対応として、オンラインは非常に大事である。統合校を含めた下北地区の高校は、地理的な状況を踏まえ、オンラインの活用を推進してほしいと考えているが、県教育委員会の考えがあれば、教えてほしい。
- (事務局) オンライン教育については、進めていく必要があると考えているが、統合校も含め、導入の可否等については、これから検討することとしている。
- 先日新聞報道で、青森県教育改革有識者会議の提言としてオンライン学習配信センターの話が出ていたが、下北地区にはオンラインで授業を受けられる仕組みが必要である。オンライン授業を行うことで、それまで開設できなかった教科・科目を受講できるようになるため、是非導入してほしい。
また、学科改編の公表スケジュールについて、教育委員会会議で決定していないことを外部へ説明することが難しいのは承知しているが、中学校1年生から進路指導をするため、中学校の教員としては、ある程度の方向性でも構わないので、学科改編する年度に高校へ進学することとなる中学生が1年生の段階で情報を提供してほしい。
さらに、大湊高校とむつ工業高校は、地域の人などと交流しながら教育活動を実施してきているので、このような学びは続けていく必要がある。
- こどもたちが多様化する中、生徒が少人数で学ぶ教育活動の機会というのは、メリットであると考えている。特に下北地区において、統合校の総合学科の系列や工業科による少人数で学ぶ機会は大切であり、統合校の担う役割は大きくなると考える。

事務局に対し、前回挙げられた意見と今回挙げられた意見を整理し、開設準備委員会に提出する情報交換会の意見のまとめを提示するよう、進行役から指示があった。

4 閉会